

楽しさ満喫 第50回 杏祭

「また来たい」

50回目となる杏祭が10月16日（金）、17日（土）に開催されました。秋晴れの下、たくさんの人出でにぎわいました。

今回の祭りのキャッチフレーズは「杏core～『また来たい』を処方します」。16日の前祭は、西里小の4年生49人によるエイサーで開幕。ダンスサークルmimicや吹奏楽部によるパフォーマンスと演奏でステージを盛り上げました。

好天に恵まれた本祭は、近隣住民や親子連れの姿も目立ち、祭りモード全開。ステージは人気芸人によるお笑いライブや歌コンテストで盛り上がり、文化展コーナーにもお化け屋敷やボッチャ体験、BLS講習会など硬軟織り交ぜたイベントが勢ぞろいしました。また、西里駅側駐車場では学生たちによる模擬店が軒を並べ、終日、元気な呼び込みの声が響いていました。

節目の杏祭のフィナーレを飾ったのはスカイランタン。願い事が書かれた100基のランタンが夜空に放たれ、会場は幻想的な雰囲気に包まれていました。（NL編集部）



観客席と一体になった
軽音楽部の演奏

色とりどりのスカイランタンが夜空を彩り、
幻想的な雰囲気に

人気を集めたお化け屋敷は
怖さバリエーションアップ



円熟の歌声は今年も健
在。西里プラザース

前祭と本祭のステージ
を華やかに彩ったダン
スサークルmimicのメ
ンバーたち

秋晴れの下、模擬店也大繁盛

杏祭に合わせ同窓会連合

「AIと医療の未来」テーマに講演会

熊本保健科学大学同窓会連合（高橋千恵美会長）主催による講演会が10月17日（土）、50周年記念館で行われました。同連合による講演会は数年に一度開催されていますが、杏祭に合わせた開催は初めての事です。

今回は、「AIと医療の未来」をテーマに、社団法人日本男性看護師会代表理事の坪田康佑氏、株式会社XaXaXa（ザザザ）CEOで第一薬科大准教授の池田智氏が相次いで登壇しました。

坪田氏は、冒頭、文字起こしAI・Nottaをはじめとした代表的な生成AIを同時に動かしながらその機能などを紹介。医療・福祉分野で国が進めるAI関連施策などを示しながら、これからの現場でのAI活用法などをアドバイスしました。

一方、坪田氏との共著もある池田氏は、訪問看護スタッフの安全確保を目的とした大学発ベンチャーの立ち上げにあたって、研究や研究成果の社会実装を試みる中で生成AIが果たした役割などについて語りました。

講演会後はレストラン「ピリア」で懇親会も開かれ、あちこちで近況を語り合う人たちの姿が見られました。（NL編集部）



演壇に立つ坪田氏（左）と池田氏



産官学連携センター FD委員会共同セミナー

データ利活用めぐり活発意見交換

本学産官学連携センターおよびFD委員会の共同主催によるセミナーが9月14日（月）、開催されました。

第1部では、全国健康保険協会（協会けんぽ）熊本支部の山根義雄氏が登壇し、協会けんぽの概要とデータ提供について講演。蓄積されたレセプト（診療報酬明細書）や健診データを大学などの研究機関と連携して活用することで、加入者や地域社会の健康増進および生活習慣病予防につなげていくことへの期待を示しました。

第2部では、熊本大学半導体・デジタル研究教育機構化血研寄附講座の中村振一郎特任教授が「歩く姿でボケを計る」と題して講演し、実際の医療現場や研究領域におけるデータの利活用実態、および利活用を進めるうえでの課題やポイントを

示しました。各講演後や全体を通して行われた質疑応答では、参加した教職員から具体的なデータの運用方法や研究連携に関する質問が相次ぐなど活発な意見交換が行われ、盛況のうちに閉会しました。（NL編集部）



セミナーの会場



流行期迎えたインフルエンザ

今週の1枚

インフルエンザが流行期に入り、今年も全学生・教職員を対象とした予防接種が10月16日（金）から始まりました。キャンパステラスを会場に、同26日（月）、11月10日（火）、同26日（木）の計4回実施されます。（NL編集部）

“当たり前、のこと考え直すきっかけに

医学検査学科4年 清田 友将さん

印象に残った水中療法／文化や習慣の違い経験

今回の交換研修では、韓国・大邱で約2週間生活し、大邱保健大学での授業や実習、病院見学、現地の学生との交流など、普段の大学生活では経験できないことを多く体験しました。

大邱保健大学では、エコーや心電図の実習、水中療法、救急外来シミュレーションなど、さまざまな分野の授業を体験しました。特に印象に残ったのは水中療法です。実際にプールに入り、浮き具を使用して身体を動かすことで、普段とは違う視点からリハビリテーションを体験することができました。また、救急外来のシミュレーションでは、看護やリハビリテーションなど異なる分野の学生と一緒に一つの症例について考えました。それぞれの専門分野から意見を出していく様子を見て、医療現場では一つの職種だけでなく、さまざまな職種が協力することが大切だと感じました。科学捜査での指紋検査や、VRを使用して人体の構造を学ぶ授業も、普段の授業とは違った学びとして印象に残っています。

また、実際に韓国で生活したことで、文化や生活習慣の違いにも気づきました。交通のルールやエスカレーターの立ち位置など、日常生活の中にも日本との違いがありました。西門市場では観光地としてだけで

はなく、現地の人々の生活に近い雰囲気を感じることができました。寺院では「丹青」と呼ばれる鮮やかな彩色について知り、日本の寺院との違いを実際に見ることができました。さらに、8月15日の「光復節」を通して、同じ歴史的な出来事でも国によって捉え方が異なることを知りました。

韓国語については、研修前から勉強していましたが、実際に韓国の学生と会話すると、思うように言葉が出てこないことも多くあり、それでも、自分が覚えた韓国語が相手に伝わったときには嬉しく、もっと韓国語を勉強したいと思うきっかけになりました。日本の方言について話す機会もあり、言葉を通してお互いの文化を知ることができました。

今回の研修を通して、実際にその場所へ行き、自分で見たり体験したりすることの大切さを学びました。韓国について知るだけでなく、日本で当たり前だと思っていたことを外から見ることで、日本の文化や医療について考えるきっかけにもなりました。今回得た経験を今後の大学での学習に活かし、将来医療従事者として働く際にも、さまざまな立場や考え方を理解できるようになりたいです。



街歩きを通して現地の人たちとも交流することができました



大邱の人気遊園地 E~world で筆者



学術振興課
森川 真帆さん

我が家には、私と誕生日が同じで、今年4歳になるオカメインコ（女の子）がいます。

美しい歌声を期待してお迎えし、歌声を聴かせてほしいと願い続けて早4年。しかし残念ながら歌う才能は皆無のようで、未だに一曲も歌えません。それでも、名前を呼ぶと「はい！」とばかりに嬉しそうに返事をしてくれます。

歌は歌えませんが、朝は「超高性能な目覚まし」として大活躍してくれます。日の出とともにお返事攻撃が始まるため、私の一日はいつも彼女の元気な声とともにスタートします。

さらに、私がお飯を食べていると、真っ先に駆けつけてつまみ食いの隙を狙う一面や、自分の抜け落ちた羽に驚いて全力で威嚇するビビリな一面もあり、毎日おてんばな娘の育児に奮闘しているかのようです。

そんな愛らしい彼女に日々翻弄されつつ、たくさんの癒しと元気をもらいながら出勤する今日この頃です。

銀杏アラカルト

■大学ってどんなところ？

西里小学校の2年生46人が9月18日（金）、本学を訪れました。生活科の学習「まち探検」の一環。児童たちはレストラン、大講義室、図書館を見学しながら「大学生は何人いますか？」「図書館にはどのくらい本がありますか？」など、案内に立った職員に次々と質問をしていました。

図書館では、職員による館内案内が行われました。児童たちは並ぶ本を興味深そうに眺めながら説明に耳を傾け、職員が人気作品『はたらく細胞』をモチーフとした書籍を紹介すると、「知ってる！」「読んだことがある！」と声を上げるなど、楽しそうな様子でした。

今回の訪問を通して、児童たちは地域にある大学について理解を深めるとともに、大学をより身近に感じる機会となりました。（NL編集部）



図書館で職員の説明に耳を傾ける児童たち

インフォメーション

行事予定（10月26日～11月9日）

11/7（土）

総合型選抜（社会人）
大学院入試（推薦・社会人選抜（I期））
公衆衛生看護学専攻科推薦選抜
助産別科推薦選抜

※「NEWSLETTER339号」は11月9日（月）に配信します。